

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-76161

(43)公開日 平成6年(1994)3月18日

(51)Int.Cl.⁵
G 0 7 G 1/06
G 0 6 F 15/21

識別記号 庁内整理番号
B 8921-3E
3 1 0 Z 7052-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全5頁)

(21)出願番号 特願平4-225557

(22)出願日 平成4年(1992)8月25日

(71)出願人 000003562

東京電気株式会社

東京都目黒区中目黒2丁目6番13号

(72)発明者 鈴木 育志

静岡県三島市南町6番78号 東京電気株式会社三島工場内

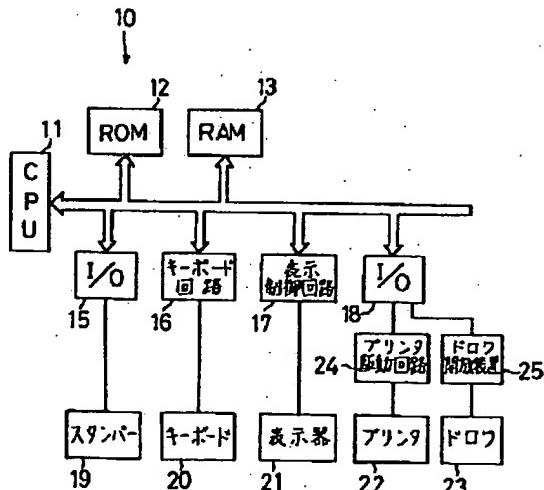
(74)代理人 弁理士 長島 悅夫 (外1名)

(54)【発明の名称】商品販売データ処理装置

(57)【要約】

【目的】所定期間の天気予報データを印字したレシートを発行する。

【構成】天気予報データ入力手段(20)と天気予報データ記憶手段(13)と天気予報データ印字制御手段(11, 12)とを設け、天気予報データ入力手段(20)で入力された天気予報データを天気予報データ印字制御手段(11, 12)がレシート上に印字する。



- 10 電子キヤッショレジスト
- 11 CPU (天気予報データ印字制御手段)
- 12 ROM (天気予報データ印字制御手段)
- 13 RAM (天気予報データ記憶手段)
- 20 キーボード (天気予報データ入力手段)

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 売上登録処理後に品名、金額等の売上情報を印字したレシートを発行する商品販売データ処理装置において、所定期間の天気予報データを入力可能な天気予報データ入力手段と、
10 入力された天気予報データを記憶可能な天気予報データ記憶手段と、記憶された天気予報データを前記レシートの所定位置に印字制御する天気予報データ印字制御手段とを備えた商品販売データ処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、天気予報データを印字したレシート発行機能を備えた電子キャッシュレジスタ等の商品販売データ処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 例えば、一般的電子キャッシュレジスタは、商品登録モードにおいて、置数キー乃至バーコード読取手段で商品コードや金額を入力して商品登録を行う。その後に、一応の締めとしての小計キーを操作して合計金額等を求める。その後に、顧客からの預り金を入力して預／現計キー等の締め操作をすることにより、一連の商品売上登録処理が終る。この際、金額等はディスプレイに表示され、ドロワが開放されかつ年月日、伝票No.、とともに品名、金額等の売上情報を印字したレシートを発行している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、電子キャッシュレジスタを備えた各種店舗におけるサービスの向上が一段と強く望まれている。本発明の目的は、上記事情に鑑み、売上情報の他に所定期間の天気予報データを印字したレシートを発行できる商品販売データ処理装置を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明に係る商品販売データ処理装置は、売上登録処理後に品名、金額等の売上情報を印字したレシートを発行する電子キャッシュレジスタにおいて、所定期間の天気予報データを入力可能な天気予報データ入力手段と、入力された天気予報データを記憶可能な天気予報データ記憶手段と、記憶された天気予報データを前記レシートの所定位置に印字制御する天気予報データ印字制御手段とを備えたことを特徴とする。

【0005】

【作用】 上記構成による本発明では、天気予報データ入力手段によって入力された所定期間（例えば1週間）の天気予報データは天気予報データ記憶手段に記憶される。すると、天気予報データ印字制御手段は、レシートの所定位置に記憶された天気予報データを印字する。よ

って、日常的に有用な天気予報の提供サービスが行える。

【0006】

【実施例】 以下、本発明の一実施例を図面を参照して説明する。本電子キャッシュレジスタ（10）は、基本的構成が図1に示すものとされ、かつ天気予報データ入力手段（20）、天気予報データ記憶手段（13）、天気予報データ印字制御手段（11、12）を備え、レシートに所定期間の天気予報データを印字可能に構成されている。

【0007】 図1において、11は演算、判断、実行等をするCPU、12は各種プログラムや固定データを記憶するROM、13は各種データを一時記憶するRAMである。電子式キャッシュレジスタ10は、これら（11、12、13）の他、店名等をレシートにスタンプするスタンパー19、置数キー、小計キー、ファンクションキー、預／現計キー等を有するキーボード20（キーボード回路16）、液晶パネルやCRTからなる表示器21（表示制御回路17）、レシートやジャーナルを印字発行するプリンタ22（プリンタ駆動回路24）、ドロワ23（ドロワ開放装置25）等を含み形成されている。なお、15、18は、入出力ポート（I/O）である。

【0008】 ここに、天気予報データ入力手段は、所定期間（本実施例では向こう1週間）の天気予報データ（晴れ、曇り等）を入力する手段で、この実施例ではキーBOARD20上の特定キー（例えば置数キー）をもって構成されている。

【0009】 また、天気予報データ記憶手段は、天気予報データ入力手段（20）によって入力（設定）された天気予報データを記憶する手段で、RAM13の一部エリア（図2参照）をもって形成されている。

【0010】 ここで、向こう1週間の天気予報データの設定を図3に示すフローチャートに基づき説明する。なお、図2（A）に示す如き前に設定されていたデータは、日付が変わった時点で、同図（B）に示す如く、1日づつずらす処理が行われているものとする（例えば、前日の時点での1日後の天気予報データは失われ、2日後のデータが1日後のデータとして入っている。）。

【0011】 まず、キー操作により設定モードとされ天気予報データ設定が選択されると（ST10、12）、向こう1週間のうち1日後～6日後までの天気予報データを設定するために、n日後（n=1～6）の天気予報データが変更する必要があるか無いか判断し、変更する必要がある場合にはキーBOARD20上の特定キー（置数キー等）を用いて変更する（ST14～22）。なお、変更しない場合は、そのままとする。こうして、1日後～6日後までの天気予報データが設定されたところで、7日後（n=7）の天気予報データはキーBOARD20上の特定キーを用いて新たに設定する（ST24）。

【0012】次に、天気予報データ印字制御手段は、天気予報データ記憶手段（13）に記憶された天気予報データをレシートの所定位置に印字制御するもので、本実施例ではCPU11, ROM12からなり、図4のST40で実行される。この実施例では、図4に示す如く、キーボード20上の預／現計キーを押下げて締め操作を行う（ST30のYES判断）と、ST32で総売上額の累計記憶等の売上登録処理がなされ、プリンタ22からレシートが発行される（ST34）。しかる後に、レシート上に各人共通の店名等をスタンプすべくスタンパー19を駆動する（ST36）。その後に、天気予報フラグがONされていることを確認してRAM13の特定エリアに記憶された向こう1週間の天気予報データを読み込み、図6に示す如く店名スタンプ等の下に印字する（ST40）ものとされている。

【0013】つまり、天気予報データは急変するものではなく、かつスタンプを締め操作と締め操作との間に実行しレシート発行の時間短縮を図るために、ST32, 34は当該顧客への売上登録処理とレシートとを発行するが、ST36～40のスタンプと天気予報データの印字は、次の顧客へ発行するレシート分であると理解される。

【0014】かくして、発行されるレシートは、図6に示す如く、先に印字された店名スタンプ、コマーシャルメッセージおよび天気予報データの次に、本人の売上情報（品名、金額等）が印字されることになる。

【0015】ここで、天気予報印字処理を、図5に示すフローチャートに基づき詳細に説明する。まず、ST41で現在の年月日をOS（オペレーティングシステム）より読み込み、当該現在年月日【本実施例では1992年6月23日（木）】をレシートに印字する（ST43）。なお、この際、「明日からの週間天気予報」の文言も合わせて印字する。次に、向こう1週間の日付と曜日を印字する（ST45）。すなわち、6月24日（木）、25日（金）、26日（土）、27日（日）、28日（月）、29日（火）、30（水）と印字する。次に、天気予報データ記憶手段（13）に記憶されている週間天気予報データを読み込み、該週間天気予報データを日付等と対応させて印字する（ST47, 49）。なお、この際、晴れ、雨等を表すグラフィックを合わせて印字することも可能である。

【0016】しかして、この実施例によれば、天気予報データ入力手段（20）、天気予報データ記憶手段（13）、天気予報データ印字制御手段（11, 12）を設

け、レシート上に週間天気予報データを印字する構成とされているので、顧客に有用な天気予報データを手軽にサービスできる。例えば、顧客は、レシートに印字された天気予報データに基づき、雨が降る前の日にはまとめ買いしておこうといった購買計画を事前にたてることができる。

【0017】また、天気予報データは、スタンプとともに次の人のレシートに予め印字されているので、売上登録処理（ST32）後は当該売上情報のみを印字するだけでよいから、レシート発行を迅速に行える。

【0018】なお、上記実施例では、本発明を電子キャッシュレジスターに適用したが、POS端末に適用してもよい。

【0019】また、天気予報データを、ホストコンピュータ等から天気予報データ記憶手段（13）に自動入力する構成としてもよい。

【0020】また、週間天気予報データを記憶し印字する構成としたが、期間はこれに限定されない。例えば、向こう1か月間の天気予報データを記憶し印字するように構成してもよい。

【0021】

【発明の効果】本発明によれば、天気予報データ入力手段、天気予報データ記憶手段、天気予報データ印字制御手段を設け、レシートに所定期間の天気予報データを印字する構成であるから、日常的に有用な天気予報データを提供でき顧客サービスを向上できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す全体構成図である。

【図2】同じく、天気予報データ記憶手段に記憶された週間天気予報データを説明するための図である。

【図3】同じく、天気予報データの設定動作を説明するためのフローチャートである。

【図4】同じく、レシートへの天気予報データの印字動作を説明するためのフローチャートである。

【図5】同じく、天気予報印字処理の詳細を説明するためのフローチャートである。

【図6】同じく、レシートへの印字状態を説明するための図である。

【符号の説明】

10 電子キャッシュレジスター

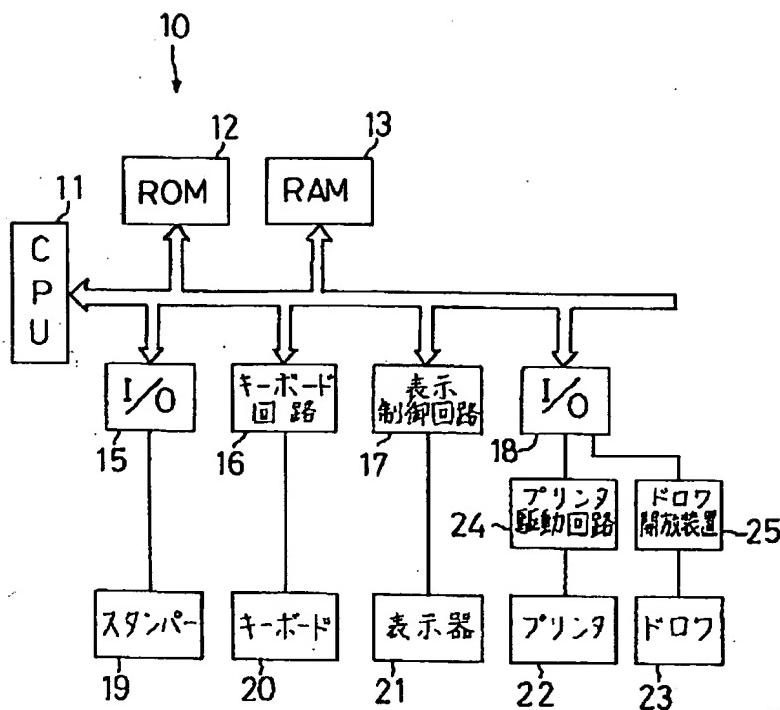
11 CPU（天気予報データ印字制御手段）

12 ROM（天気予報データ印字制御手段）

13 RAM（天気予報データ記憶手段）

20 キーボード（天気予報データ入力手段）

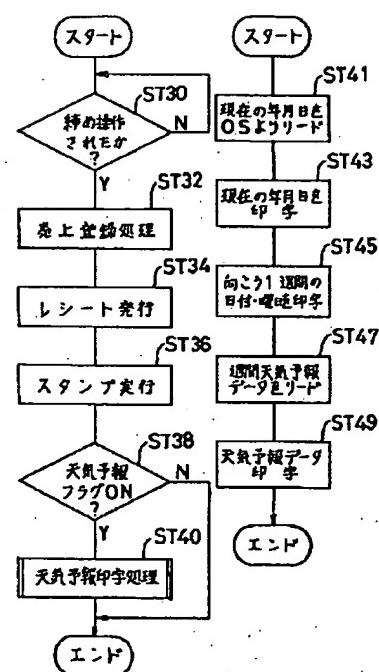
【図1】



【図2】

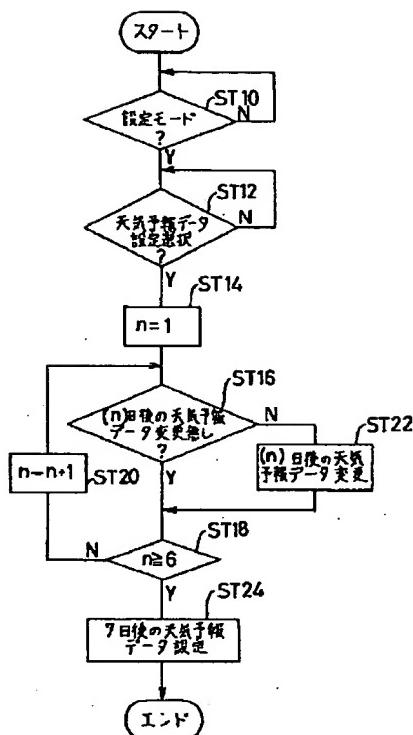
(A)	(B)
01 曇れ	01 曇れ
02 雨	02 雨
03 雪	03 雪
04 曇りのう晴れ	04 晴れ
05 曙れ	05 曙り
06 霧り	06 霧り
07 雷	07 (晴れ)

【図4】



【図5】

【図3】



【図6】

店名スタンプ
オマーシャル・メッセージ
1992年 6月23日(水) 明日からの週間天気予報
24 25 26 27 28 29 30 (木) (金) (土) (日) (月) (火) (水)
晴れ 晴れ 曇り 曇り 曇り 曇り 曇れ
のち
001 ガム ¥60 002 ラムネ ¥50 003 スナック ¥120
小計 3点 ¥230 消費税 ¥6 合計 ¥236
預り ¥1,000 約り ¥764
レジ 0020 92年06月23日 00.0001